

## 第 4 回 芳川北小 学校運営協議会

令和8年2月13日

9:20~11:20

会議室

<次第>

開会 開催要件(委員の過半数の出席)確認 <司会:小野、記録:佐藤>

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出(出席した委員の中から互選)

4 前回会議録確認(CS ディレクター)

5 熟議 <議長:栗田委員>

- (1) 学校関係者評価(「いじめ防止等のための基本的な方針について」を含む)(教務)
  - ・学校運営協議会の自己評価について(会長)
  - ・学校運営協議会の取り組みについての振り返り
- (2) 来年度の学校運営の基本方針の説明(校長)
- (3) 夢育やらまいか CS 加算分の報告(教頭)

6 報告

・ボランティア活動の実践について(金山委員・本康委員)

7 連絡 <司会:小野、記録:佐藤>

- (1)令和8年度第1回学校運営協議会の予定 令和8年5月14日(木)会議室14:00~16:00
- (2)次回の議長の選出
- (3)次回の熟議内容の確認
- (4)卒業証書授与式 3月17日(火) 午前9時開式

南陽協働センターより

閉会

## 第4回 学校運営協議会出席者名簿

### 学校運営協議会委員

	〇〇 〇〇 ※ふりがな
会長	河島 茂男 かわしま しげお
副会長	廣野 博子 ひろの ひろこ
委員	村松 真弓 むらまつ まゆみ
委員	金山 康乃 かなやま やすの
委員	鈴木 俊徳 すずき としのり
委員	栗田 美香 くりた みか
委員	青木 律子 あおき りつこ
委員	本康 優子 もとやす ゆうこ

### オブザーバー

南陽協働センター	袴田 唯之 はかまた ただゆき
----------	-----------------

### 学校

校長	高木 宏康 たかぎ ひろやす
教頭	小野 芳敬 おの よしたか
教務主任	仲山 麻由 なかやま まゆ
生徒指導担当	杉浦 秀祐 すぎうら しゅうすけ
CSディレクター	佐藤 富子 さとう とみこ

### 浜松市教育委員会

学校・地域連携課	牧野 知子 まきの ともこ
教育センター	大橋 健一 おおはし けんいち 前田 浩平 まえだ こうへい

傍聴者	2名
-----	----

I 令和7年度の取り組み

「気づく 考える 行動する」子供の姿

- 自分自身を知り、ものごとを自分事として前向きに捉える
- 関わりを深め、相手の思いを感じたり自分の思いを伝えたりする
- 課題を見付け、様々な経験や学びを生かして解決方法を考える
- 未来を見つめ、なりたい自分に向かって行動する
  - ・教材担任制・ICTの活用・教材研究
  - ・家庭学習の在り方検討等・教師の声掛けと仕掛けの工夫

学年(国)を軸とした「カリキュラム・マネジメント」

- 児童の1年間の育ちを見直し、学年経営構想図を基に各学年で教育活動を展開する。また、節目ごとの評価・改善を行い、常に児童の実態を把握しながら学年経営を行っていく。
- ・PDCAサイクル・児童理解、学年担任の意識等
- ・「知」「徳」「体」の重点を意識した指導・学年イベント
- ・いじめ防止対策・キャリア教育・学年会の充実

保護者・地域と共に「コミュニティスクール」

- 9名の委員が構成される学校運営協議会を設置し、構成される学校教育方針の共有する。保護者や地域住民と一体となって、学校運営の改善や児童の教育活動の充実を図る。
- ・地域で育て児童・クラブ活動・地域人材活用
- ・児童の学習活動、学校整備に関するボランティアシステム (なないろパレット)

II 自己評価

○ 児童・教職員・保護者・学校運営協議会委員の評価

質問項目	達成率 (%)	
	児童	教職員
自分や身の回りの課題に気づくことができる。	82.8	68.8
自分の力で、または、周りと関わりながら、考えを深めたり、課題の改善方法を考えたりすることができる。	82.0	79.9
自分で考えたことや改善方法を、実際に行動に移すことができる。	80.6	78.3
学習したことが身に付いている。	90.6	91.1
家庭学習(学年×10分・1,2年生は目安の時間はなし)に取り組んでいる。	75.3	64.6
学校で学んだことが将来の役に立っていると考えている(キャリア教育)。	90.9	62.2
教科担任制を通して学習への意欲や学んだことへの理解度が高まっている。	78.3	76.8
自分の良さに気づいている。	81.3	79.2
学校に楽しく通っている。	88.2	92.3
いじめは絶対にしてはいけないことを理解している。	95.6	99.3
公共マナーを守っている。	89.8	97.3
自分から進んで気持ちのよい挨拶をしている。	83.0	71.5
進んで体を動かしている。	92.4	76.0
家の中の過ごし方を考えたり、交通ルールを守ったりして、安全に生活している。	92.0	93.2

IV 学校運営協議会による学校関係者評価 (R8.02.13(金))

V 次年度に向けた改善策

- ・職員のアプローチから課題を自分の力で解決することや家庭学習への取り組みに課題を感じていることが分かった。自己調整力を育成するために、40分授業と15分の裁量時間を効果的に活用し、分散学習を取り入れながら、自分の課題にあった学習方法を選択していくことや、見直しをもって家庭学習に取り組むことができるように学習カードの形式を工夫していく。
- ・基本的な生活習慣やマナー、情報モラルのさらなる育成のために、食育やICT機器の活用について、年間計画を見直し、担任や情報主任、栄養教諭などが協力して指導を行っていく。
- ・いじめを未然に防止するために、今後も「学年カリキュラム・マネジメント」を通じ、「思いやりや心」をもった学年集団を形成することで「いじめ0」を徹底していきたい。
- ・コミュニティスクールを通して学習ボランティア(なないろパレット)を一層充実させ、いろいろな人から学び声掛けをしてもらうことで、児童が自分の学びを実感することが大切である。また、学年の保護者にも学習ボランティアの募集を行い、日頃の子供たちの様子を多くの方に見て頂き、学校・家庭・地域が一丸となつてよりよい子供たちの成長を支えていくようにする。また、児童にとつては、達成感を味わうことで、さらに学びたいという意欲や学んだことが生活の場面でも生かされていることに気づき、キャリア教育の推進につながると考える。

III 評価からの分析

【アンケート結果より】

- ・「気づく 考える 行動する」の言葉を元に、各学年の実態を捉え学年担任が目指す子供の姿を意識しながら教育活動を工夫し、支援を行ってきた。それにより、児童の80%以上が気づく・考える・行動する力がついてきたと感じている。昨年度から引き続き、気づくことができても、その気づいた課題を自分の力で解決しようと考えることが苦手な児童が多いと教職員は感じていることが分かった。
- ・教科担任制を導入していることで、学習の意欲や学んだことへの理解度が高まり、学習したことが身に付いていると実感できていると約78%の児童が感じている。実施教科や時数の調整など昨年度課題と上がった点について検討し、国語科を担当が持ち、実施教科を精選したことにより、より効果的な指導を行うことができたと感じている教職員が多い。
- ・家庭学習への取り組みについての達成率が、昨年度に引き続き低い評価になっている。特に、自分で考えて学習を進めていく高学年段階で不安を抱える児童や保護者がいる。児童の実態に合った家庭学習の取り組み方を学年で検討していく必要がある。

【全国学力調査の結果より】

- ・「人の役に立ちたい」「自分には良いところがある」と答えた児童の割合が、全国平均を上回っている。これは、家庭や学校生活で培われる自己肯定感の高さや協調性の高さを示していると考えられる。
- ・これまで本校の課題だった「朝食の喫食率」や「読書への意識」は、全国とほぼ同じ割合に上がった。これは、家庭と連携した取り組みの成果といえる。
- ・タブレットやスマートフォンなどのICT機器の使用時間が全国平均よりも長いという傾向が見られた。

【いじめアンケート結果より】

- ・いじめは絶対にいけないと約96%の児童が理解している。本校では、「芳川北小いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止やいじめの早期発見など対応を行っている。いじめを認知した際、「いじめ対策防止基本方針」とはままつの教育「いじめ対応の手引き」に沿って、被害者に寄り添って対応している。また、保護者にはいじめの状況や指導したことなど、事実に基づいた報告を行ってきた。教職員も児童がいじめがいけないと理解していると答えたのは、職員が一丸となつて行ってきた指導の成果だと見える。

(様式1)

学校番号 (小)・中 )

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(芳川北小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- 学校運営の基本方針について理解を深めるとともに、連携をして活動を推進していく。
- 保護者や地域の協力体制や教育力を高めるような対策を考えていく。
- 引き続き「ネットやSNSへの向き合い方」「読書に親しむ子」について、委員会としてできることを考えていくとともに、子供たちの様子や学校評価から見える課題について、重点を決めて話し合い、対策を練っていく。
- なないろパレット(学習支援ボランティア)の活動の充実を図っていく。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった  
(理由)

- 資料に基づき、校長先生より学校運営の基本方針について丁寧な説明を受けた。
- 各学年の基本方針について学年の先生方との直接の質疑ができ、子どもたちの実態を踏まえた指導の工夫など知ることができた。
- 委員からも子どもたちの地域での様子などについて意見が出され、話し合いが深まった。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒  ア よくできた  イ できた  ウ あまりできなかった  エ できなかった  
(理由)

- 「読書」への取り組みの現状や今後の方策について話し合いを深め、昨年度よりさらに充実した活動に結びつけることができた。「SNSへの向き合い方」に関する対策については、いろいろな対策を立てているが、なかなか結果に結びついていかない現状が話し合われた。
- 学習支援ボランティアの大切さや、充実させるための話し合いを深めることができた。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒  ア 充分に行った  イ 行った  ウ あまり行わなかった  エ 行わなかった  
(理由)

- 協議結果など学校のホームページにて発信をしている。
- 「学力調査結果から見えること」「読書やSNSへの取り組み」など、子どもを取り巻く現状や学校の指導、家庭に協力してもらいたいことなど、学校だよりで発信した。
- なないろパレット(学習支援ボランティア)の活動について、地域・家庭に連絡できた。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- 子どもの学びや成長を地域・家庭で支えるという視点を基に、必要な改善点や連携のあり方について協議し、発信していく。
- 引き続き「読書に親しむ子」「SNSへの向き合い方」について、委員会としてできることを考えていくとともに、子どもたちの様子や学校評価から見えてくる課題について、重点を決めて話し合い、対策を練っていく。
- なないろパレット(学習支援ボランティア)コーディネータと教師・保護者との連携を密にし、活動の円滑化と充実を図っていく。

# 令和8年度 浜松市立芳川北小学校 学校経営方針（案）

## 1 時代の背景より

### （1）令和の日本型教育…Society5.0時代を見据えた取り組み

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質能力を育成することが必要。

#### 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育」の姿

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

それぞれの学びを一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる（履修主義と習得主義のイイトコドリ）

#### ア 個別最適な学び

##### 指導の個別化

- ・ 支援が必要な子供により重点的な指導を行うなど効果的な指導を実現
- ・ 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供設定を行う

##### 学習の個性化

学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が、学習が最適となるよう調整する。

#### イ 協働的な学び

探求的な学習や体験活動等を通じ、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。

一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出す

### （2）第4期教育振興基本計画（令和7年度～令和16年度）

#### ○ コンセプト

- ・ 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成
  - ・ 日本社会に根差したウェルビーイングの向上
- ⇒ 獲得的要素と協調的要素を調和させ、一体的に向上させていく。

#### ○ 基本的な方針

- ① グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ② 誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③ 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④ 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤ 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

### (3) 学習指導要領

- 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）
- 理解していること、できることをどう使うか  
（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか  
（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

#### 社会に開かれた教育課程

- よりよい学校教育を通じて よりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有すること。
- これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成すること。
- 地域と連携・協働しながら 目指すべき学校教育を実現すること。

#### カリキュラム・マネジメント

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

- 学校教育の効果を常に検証して改善する
- 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる
- 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

### (4) 第4次浜松市教育総合計画 前期（令和7年度～11年度）

#### 基本理念 『描く夢や未来の実現』

##### 3つのコンセプト

- 主体性
- 多様性・包摂性
- 信頼・協働

##### 3つの方針

- 1 自分や浜松の未来を創る人づくり
- 2 安全・安心で魅力ある環境づくり
- 3 こどもの学びや育ちを支える連携・協働

##### 目指すこどもの姿

- ・自分らしさを大切にすること
- ・他者と協働し、主体的に行動できること
- ・自己調整しながら、粘り強く取り組むこと

##### 目指す教職員の姿

- ・こどもの自分らしさを受け止める教職員
- ・愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- ・専門性と指導力を磨き続ける教職員

## 2 本校の特色

### (1) 地域・保護者

本校学区は、浜松駅南東約3kmに位置し、学校の西を芳川が流れている。また、西伝寺町、頭陀寺町、本郷町、本郷東町、参野町、恩地町、都盛町の7町自治会と安松町の一部で構成されている。学区外からの通学児童も在籍している。

地域には、環境保全を活動のテーマとしている「芳川をきれいにする会」や「恩地町環境みどりの会」などがあり、子供たちに活動の場を提供してくれている。また、井伊直虎や徳川家康、豊臣秀吉にゆかりのある頭陀寺や松下屋敷跡などをはじめとして、校区内には文化財が多い。

保護者は学校に協力的であり教育活動に対し理解がある。令和4年度から開設したコミュニティ・スクールのボランティア募集（なないろパレット）の呼び掛けに対し、一定数の保護者が参加を希望し、さらなる充実を願っている。また、以前より図書館には、常時、数人のボランティアがいて、子供たちのサポートをしている。一方、支援が必要な家庭には、SSWや地区社会福祉協議会の適切なサポートが入っている。

### (2) 本校の子供たち

- 自己肯定感が高く、明るく素直な子が多い。
- 自分から同学年・他学年の友達、地域の方々等に積極的に関わろうとする。
- 指示されたことや、明確になった目標に向けて真面目に取り組むことができる。
- 外遊びを好む子供が多く、授業や行事、自分の仕事に前向きに取り組む。
- ◎ 互いの良さに気づき、認め合う態度が育ってきた。
- ▲ 話す力・聞く力・書く力のバランスの取れた定着を図りたい。
- ▲ 規範意識を向上させ、ルールやマナーを大切にできる態度を身に付けさせたい。
- ▲ 自己の安全や健康に対する意識を高め、自己管理能力を向上させたい。
- ▲ 基本的な生活習慣や基礎学力について、個に応じた支援を充実させたい。

## 3 教育構想

### (1) 南陽・東陽中学校区の目指す子供の姿

「自他を大切にし、高めあう子」

・笑顔の挨拶      ・規範意識      ・学ぶ喜び

### (2) 学校教育目標・目指す学校像・子供像・教職員像

◇学校教育目標

「自分らしく ともに輝く子」 令和7年度～

自分を知り、自分に合った方法で、仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦することを通して、描く夢や未来を実現していこうとする子供

<自分を知り、自分に合った方法>

「自分らしさ」を大切にして、自分自身で目標を立て、自分の行動を振り返り、評価しながら次の行動を決定していく。(自己調整)

<仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦する>

他者を認め、協働しながら高め合い、自ら解決すべき課題を見つけ、試行錯誤しながらも最後まで取り組む。

<描く夢や未来を実現していこうとする>

自分のよさや可能性を認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、豊かな人生を切り拓いていこうとする意欲をもつ。

- 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手となる
- 自ら行動していくことで、それぞれのウェルビーイングを向上させる

◇目指す学校像

「温かみのある優しい学校」

- 自分の居場所があり、やりがいを感じる学校
- 子供一人一人の良さが発揮できる学校
- 安心・安全な学校（保護者にとっても）
- 地域から信頼される学校（開かれた学校）

◇目指す子供像

「気づく 考える 行動する」子供

物事を自分事として捉え、人・もの・こととの関わりから新たな価値に気づき、主体的に課題を見付ける。そして、既習の事柄や経験、周りとの対話などをもとに思考・判断し行動する子供

<身に付けたい力>

- 自分自身を知り、ものごとを自分事として前向きに捉える力
- 多様な人・もの・こととの関わりを深め、相手の思いを感じたり自分の思いを伝えたりする力
- 課題を見付け、様々な経験や学びを生かして解決方法を考える力
- 未来を見つめ、なりたい自分に向かって行動する力

◇目指す教職員像

「気づく 考える 行動する」職員

- 子供の変化に気づき、教師としてすべきことを考え、働きかけよう
- 子供の自分らしさを受け止め、諦めず導き、やればできる力を信じよう
- 子供とともにいられる幸せ（初心）に気づき、理想の教師像を語ろう

- 周りに同僚の支えがあることに気づき、チームとして事に当たろう
- 育成指標を意識し、自己の専門性や指導力を磨き続けよう。

### (3) 教育課程の柔軟化（サキドリ研究校指定を受けて）

- ◎ 学びと生活の質の向上を図るため、創意工夫ある教育課程や指導方法を研究する
- 午前5時間日課の活用
  - ⇒ 児童の集中力が高い午前中の指導を充実させる。
  - ⇒ 支援員や教科担任教員等、午前中勤務の職員を最大限活用する。
  - ⇒ 午後の時間帯にゆとりをもたせ、必要な指導や活動をじっくりと行う。
  - ※ 授業開始・終了時刻を厳守し、規則正しい生活から児童の安心感を高める。
- 40分授業で学びの質を高める
  - ⇒ 指導内容の精選と重点化
  - ⇒ ICT活用による活動の効率化
  - ⇒ 生み出した時間の有効活用（「プラスタイム」（裁量）、「クロスタイム」（研修））
  - ※ 子供の基礎学力と教師の授業力を効果的に向上させる。

### (4) 学年経営構想を軸とした取組

- 学年を軸としたカリキュラム・マネジメントの作成を通して、目指す子供の姿の具現化に向けて全教職員が共通の認識をもち、教育活動を展開する。
- 子供と共有していくための学年目標（一年後の自分の姿）を設定する。
- 学年目標を、子供たちにも分かりやすい形で過程を示し、メタ認知させる。
- 目標具現化に向けて共有するための学年経営構想図を作成し、PDCA サイクルを回しながら、目標と手立て（仕掛け）を関連付けて一つ一つの教育活動の意味を意識して実践する。
- 物事を自分事として捉え、人・もの・こととの関わりから新たな価値に気づき、主体的に課題を見つけ、既習の事柄や経験、周りの人との対話などをもとに思考・判断し行動する子供に育てたいという思いをもつ。

### (5) 発達段階に応じた教科担任制の導入

- 教科担任教員が教材をじっくりと研究し、児童へ質の高い授業を提供する。
- 各教員が専門性を磨く場ととらえ、育成指標に基づく資質・能力の向上を図る。
- 児童と接する教員を増やし、多面的に児童を理解し生徒指導に生かす。
- ※ カリキュラム・マネジメントを軸として、教科指導における重点を共通理解する。

### (6) 教育課題への対応

- 不登校、発達支援が必要な子供たちへの配慮
  - 「校内まなびの教室」（ほっとルーム）や「発達支援教室」（グッドルーム）の活用。
  - 担当者との情報共有や保護者との連絡を密に行う。
- 基礎基本・基本的生活習慣（挨拶 時刻 忘れ物）の定着

習熟を図るための時間を設定し、教員みんなで指導に当たる。  
社会に出たときに必要なルールやマナーを、具体的な場面をとらえて指導する。

○ 教育の情報化推進

Chromebook の効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の関わりについて、研修を進める。

情報モラルについて各学年の実態に即した適切な指導を行う。必要に応じて、外部専門機関等の協力を要請する。

目的に応じた、効果的な生成 AI の活用やデータの利活用を進める。

(7) 家庭学習についての意識改革

○ 「気づく 考える 行動する」の視点から、今必要なことを自ら考えて学習をしていく一つの場としてとらえていく。

○ 発達段階に応じて進めていくことと同時に、保護者の認識を高めていくために丁寧な説明をする。

○ ICT を活用して自己選択学習を促進させ、家庭での自分の学びを充実させる。

(8) コミュニティ・スクール (CS)

○ 学校運営協議会で学校教育方針を共有し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、地域と一体となって、学校運営の改善や教育活動の充実を図る。

○ 「なないろパレット」(人材バンク)に登録した人材を積極的に活用する。

○ CS コーディネーターとの打ち合わせを行い、活動の目的や支援内容が支援者に確実に伝わるようにする。

※ 学校・地域・家庭がそれぞれの役割を理解しながら、同じ方向を見て子供を育てる。

(9) 発達支援教育を根幹に多様性に配慮した児童理解

○ いじめは絶対にしないという風土づくりを、教師が身をもって示しながら行う。

○ いじめ認知を「子供の苦痛認知」としてとらえ、子供の困り感に丁寧に寄り添う。

○ 学級の中で、困り感や弱さを出すことができる雰囲気をつくる。(包摂性)

○ 考え方やとらえ方の違いの中から生まれてくる気づきや大切なことの意味を学ぶ機会をつくる。(多様性)

○ 子供の特性や成育歴、時に家庭環境を含めた児童理解を行い、各自の「自分らしさ」を受け止める。

○ 「親はよく頑張っている。」というとらえのもと、保護者との良好な関係を保つ。

○ 生徒指導において、指導内容も含め、事実のみ、時系列を追って記録する。

○ 外国人児童等(外国につながる児童)の置かれている状況・多様な背景に配慮し、学級での居場所づくりや個別指導等、適切な支援を行う。

# 令和8年度 浜松市立芳川北小学校 学校経営構想（案）

<第4次浜松市教育総合計画で目指す子供の姿> ・自分らしさを大切にすることも  
・他者と協働し、主体的に行動することも ・自己調整しながら、粘り強く取り組むことも

<南陽・東陽中学校区の目指す子供像>

「自他を大切にし、高めあう子」 ・笑顔の挨拶・規範意識・学ぶ喜び

## 学校教育目標 「自分らしく ともに輝く子」

自分を知り、自分に合った方法で、仲間と力を合わせながら、粘り強く挑戦することを通して、描く夢や未来を実現していかうとする子供



目指す子供像

「気づく 考える 行動する」子供

### 気づく力

自分自身を知り、  
物事を自分事として  
前向きにとらえる力

仕掛け

- ・安心できる学級・学校づくり
- ・振り返りの場の設定
- ・学んだことの発信

仕掛け

- ・情報を獲得するための基盤づくり
- ・実態把握と目標設定の促進
- ・自己を捉えるための支援

見通す  
発見する  
興味をもつ  
疑問をもつ



自己実現  
に向けて  
実践する力

### 考える力

様々な経験や  
学びを生かして  
解決方法を見出す力

仕掛け

- ・必要感高まる授業や行事の展開
- ・試行錯誤ができる場面設定
- ・話し合いや練り合いの充実

推測する  
計画する  
判断する  
自己調整



### 行動する力

多様な人や事象と  
のかかわりを深め、  
自分の考えを行動に  
移す力

提案する  
表現する  
対話する  
挑戦する



一人一人の可能性が輝く 教育課程の柔軟化

学年を軸とした カリキュラム・マネジメントで育てる  
～芳川北小キャリア教育～

保護者・地域と一体になって芳川北小の子供を育てる  
～芳川北小コミュニティスクール～

浜松市の教育基本理念 描く夢や未来の実現